

専修学校

鳥取県立農業大学校

Tottori Prefectural College of Agriculture

学校要覧



URL:<http://www.pref.tottori.lg.jp/noudai/>

沿革

- ◆昭和4年 財団法人山陰国民高等学校として開校。農村のリーダー的人材の養成を目的に設置された。
- ◆昭和9年 県立修練農場として新発足。
- ◆昭和24年 県立経営伝習農場と改称。
- ◆昭和42年 県立農業経営大学校と改称。
- ◆昭和59年 県立農業大学校と改称。また人事院規則の運用により短期大学卒業者と同等の処遇を受けることとなった。
- ◆平成9年 教育施設を全面的に整備。
- ◆平成19年 専修学校として新発足。農業改良助長法に基づく農業者研修教育施設であるとともに、学校教育法が規定する専修学校として位置づけられた。
- ◆平成20年 教育研修課程を見直し、養成課程農業経営学科に5つの専攻コース(果樹、野菜、花き、作物、畜産)を設けた。また、研修課程に短期研修科を新設した。
- ◆平成27年 アグリチャレンジ研修(公共職業訓練)を開始。



設置目的

次代の農林業を担い、指導的役割を果たし得る人材を育成・確保し、及び農業者等の研修を行い、もって農林業の振興に資するとともに、広く農業者等の生涯学習及び国際交流を推進する。

教育研修体系

本校には**養成課程**と**研修課程**の2つの課程があり、どちらの課程も就農を目指した人材を育成していきます。

鳥取県立農業大学校

養成課程

農業経営学科

- 2年の修業期間で生産から販売まで専門的な知識・技術を体系的に習得する
- 果樹、野菜、花き、作物、畜産の専攻コースを設ける
- 社会人特別入学制度あり

特徴

- 充実した施設により高度で先進的な農業技術を習得する
- 農家留学研修等により優れた農業技術と経営理念を学ぶ
- 外国の研修生との交流を通じ国際感覚を醸成する

概要

- 高等学校卒業あるいは同等の学力を有する方を対象
- 養成課程は専修学校で、卒業生は専門士の称号が与えられる
- 希望入寮制で学生寮に入寮可能

研修課程

スキルアップ研修、先進農家実践研修

- 自営就農を目指す方を対象に、大学校内又は先進農家で一年間の実践研修により、就農に必要な知識と基本技術を習得する

特徴

- スキルアップ研修:目標とする農業経営を想定した研修の実施により、自らの技術向上を目指す
- 先進農家実践研修:就農予定地域の先進農家の現場作業をとおして実践力を身につける

概要

- スキルアップ研修:自営就農の予定者又は就農年数の浅い方で、経営基盤のある方を対象
- 先進農家実践研修:アグリチャレンジ研修(公共職業訓練)を修了した自営就農予定者を対象
- 研修者用宿泊施設の利用が可能

※この他、農業者や一般県民等を対象とした「農業研修」、公共職業訓練「アグリチャレンジ研修」があります。(詳細は6頁)

2年間の課程で農業に関する生産から加工、販売までの専門的な知識・技術を体系的に習得します。



教育棟

農業経営学科カリキュラムのポイント

1. 専攻コース制(果樹、野菜、花き、作物、畜産)で自分の希望するコースを選ぶ
2. 講義と実習の時間を同程度に配分したバランスの取れたカリキュラム
3. 先進農家で26日間研修を行い、農業の実際を学ぶ
4. 大阪市場研修、地元市場研修で、流通の実際を学ぶ
5. 農大市、量販店における実習で、実践的に販売を体得
6. 充実した経営関係講義により、経営感覚を養う
7. プロジェクト学習により、課題解決能力を養う
8. 年数回行われる特別講義により、深い教養を習得

定員、募集方法

専攻コース	定員	募集方法
果樹・野菜 花き・作物 畜産	30名	推薦入学 一般入学 社会人特別入学*

*高校卒業或いは同程度の学力のある方で、入学時(4月1日現在)65歳未満且つ2年以上の職歴があり、卒業後県内に就農する見込みのある方

農業経営学科カリキュラム

区分\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1学年	午前 講義	農業全般基礎学習 栽培方法、土壌肥料、農業機械、植物生理、病害虫、農薬等基礎的科目					専攻コース別基礎学習 園芸学各論(果樹、野菜、花き)、作物概論、畜産関係各論等コースごとの講義、実験、演習						
	午後 実習	基礎的栽培実習					プロジェクト学習						
2学年	午前 講義	専門学習(流通、販売、経営) 販売マーケティング、経営計画、情報処理、農業法人等、経営に関する講義、演習			農家等留学研修 (26日間)			総括学習 ・卒業論文 ・農業経営計画					
	午後 実習	プロジェクト学習											

一般の方を対象とした聴講制度もあります。

果樹コース

新技術・新品種を導入した果樹ほ場(ニホンナシ、リンゴ、モモ、ブドウ等)の栽培管理や生産物の販売を学生が主体となって行います。永年作物である果樹の基本的栽培管理を習得しながら、経営感覚を養い、特に梨については新しい技術を学ぶことができます。

- 梨やブドウ等の今後有望視される新品種や新技術が導入されたほ場で、最先端の栽培技術を学ぶ。
- 日本有数の梨産地という背景から、技術習得の場は多彩であり、校外で幅広く学習できる。
- 非破壊糖度センサーを活用した選果を行うなど、近年の消費者ニーズへの対応も視野に入れた実習を行う。



1年次では、県特産の白ネギ、ブロッコリー、スイートコーン等の露地野菜を中心に栽培の基礎を学び、2年次ではトマト、スイカ、メロン等の施設園芸を中心に、実践力、経営感覚を養います。さらに、有機栽培や養液土耕栽培、天敵導入技術等により、環境に優しい野菜づくりを学びます。

- 1人が必ず1施設(ハウス)を担当して、自分の作りたい野菜を責任と自信を持って栽培管理する。
- 生産から出荷調製、価格決定までを各担当者が責任をもって行う。
- 環境に優しい農業を学び、鳥取県特別栽培農産物認証を受ける。

野菜コース

花きコース

鳥取県の主要品目であるストック、シンテツポウユリ、花壇苗などの基礎的な栽培技術を学びます。また、新規品目や先進技術にも積極的に取り組みます。

- 学生ごとに1品目以上を担当し、作りたい花を最初から最後まで責任と自信を持って栽培する。
- 研修会、展示会などに積極的に参加し、新技術や農業情勢を学ぶ。



水田の主要作物である水稲・大豆等について、基礎的な知識と年間を通じた管理技術を習得するとともに、水田営農における経営者・オペレータとして必要な栽培・経営技術を学びます。

- 水稲・大豆のほか、白ネギ・ブロッコリーなどの転作野菜の栽培にも取り組みながら、水田や水田転換畑の年間管理技術を細かく学ぶ。
- トトラクター、田植機、コンバイン、刈り払い機などの機械作業の基礎を実際に演習しながら、一から学ぶ。

作物コース

畜産コース

乳牛、和牛の基本的な飼養管理技術を習得するとともに、大型トラクターによる粗飼料収穫調製や自動化された搾乳など、先進的な畜産技術を学びます。

- 乳牛、和牛(繁殖及び肥育)、飼料作物の周年管理技術とトラクター、ローダー等の機械操作を学ぶ。
- プロジェクト学習を通じて科学的に飼養管理を学ぶ。
- 畜産共進会に出品し、出品技術の向上や生産農家との交流を図る。



情報処理



文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトを習得し、卒論発表にも活かします。

講義



主に午前中は座学で知識を吸収します。

卒業論文発表会



2年間のまとめとして、2年生全員が卒論を発表します。

6次産業化の取り組み



農大ブランド商品の開発を目指し、農産物の加工にも取り組んでいます。

授業風景

実験・実習



バイオテック、土壌診断、農業機械等について実習により深く学びます。

現地視察研修



先進的な農業者や研究施設を視察し、知識を深めます。

販売実習・農大市



学生が自ら育てた農産物を農大内外で対面販売して好評を得ています。

農業基礎実習



専攻コース以外の実習を行うことで、農業全体の幅広い技術を体得します。

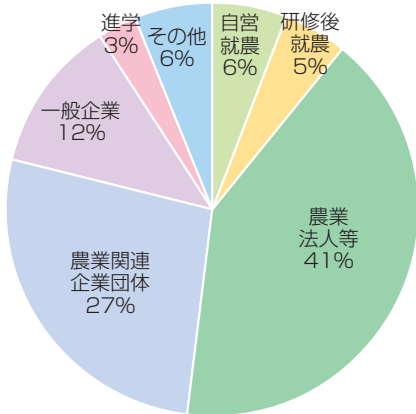
進路 ・ 資格等

卒業後の進路は、すぐに就農(自家の農業を継いだり農業法人に就職)する人あるいは進学や先進農家等での研修後に就農をめざす人、また、農協などの農業団体や農業機械などの農業関連企業に就職する人など様々ですが、それぞれの目標に向かって進みます。

なお、本校では、無料職業紹介事業を実施しており、個々の学生に応じた進路相談を行っています。

卒業生の進路状況

平成22～26年度:113名



資格・特典

- 本校養成課程の卒業生は、人事院規則及び鳥取県人事委員会則に定める「短大2卒」の資格に準じて取り扱われる。
- 本校養成課程は専修学校となっているので、次の3つの特典がある。
 - 卒業生は4年制大学の3年次編入試験を受験することができる。
 - 卒業生に「専門士」の称号が与えられる。
 - 日本学生支援機構等の奨学金を受けることができる。
- 本校を卒業後1年以内に独立・自営就農または雇用就農する場合は、在学中に青年就農給付金(準備型)を受給することができる。
- 在学中に以下の免許または資格を取得することができる。
 - 大型特殊自動車運転免許及びけん引免許(農耕車に限る)
 - ガス及びアーク溶接技能 ●玉掛技能 ●小型移動式クレーン運転技能
 - 小型車両系建設機械運転特別教育 ●フォークリフト運転技能
 - 日本農業技術検定 ●危険物取扱者免許 ●毒物劇物取扱者免許
 - 家畜人工授精師免許(畜産コース) ●日商簿記検定3級
 - 2級ボイラー技士免許

頑張っています!! 卒業生の声

本校は設立後80年以上の長い歴史があります。卒業生は県内外で自営農業や農業関係団体・企業などで活躍し、鳥取県の農業発展に様々な形で貢献しています。

卒業と同時に独立就農

増本和也(H24野菜卒)



私は、農大在学中に就農することを決めました。

就農するにあたり、農大の先生方には大変お世話になりました。

自営就農して数年になりますが、毎年、前年よりももっといいものができるよう毎日努力しているところです。

農業法人で頑張っています

村上雄平(H22作物卒)



卒業後、岩美町の農業法人で働いています。

最近、農大出身の後輩が入社し、今は後輩の指導もしながら、一人前の社員として早く運営に関われるよう頑張っています。

また、将来は地域を担っていけるようになりたいとも思っています。

酪農ヘルパーとして活動

西垣実香恵(H24野菜卒)



野菜コース卒業ですが、実家が酪農家ということもあって酪農ヘルパーとして東部地区中心に担当しています。

農家から大切な牛を任せられ、農家それぞれの管理方法や牛の状態をしっかりと把握して対応しなければならない責任のある仕事ですが、とてもやりがいがあり、楽しく仕事をしています。

夫婦で力を合わせ頑張ります

小林正法、利江(H20、25花き卒)



同じ花きコースの先輩後輩同士、父親の緑化草木生産も手伝いながら、夫婦で新たに花と野菜の栽培に取り組んでいます。

農大で身につけた知識や技術を基礎に、切り花栽培を中心とした経営を目指し、二人で力を合わせて頑張っています。

実家でブドウ栽培しています

植原 証(H20果樹卒)



農大卒業後、すぐに祖父のブドウ経営を継承し、就農しました。

栽培品種は、ピオーネが中心ですが、新品種のシャインマスカットも導入しています。祖父の教えをしっかりと守りながら、妻や弟とともに家族で協力し、安定した経営を目指します。

JAで稲作を担当

村岡亮一(H22作物卒)



JA鳥取中央の琴浦営農センターで水田営農担当として勤務しています。

稲作指導で農家の相談にのったり、秋にはカントリーエレベーターの主任として生産者の皆さんが丹精込めて生産された大切な米を責任をもって最適に管理するよう日々心がけています。

修農祭

販売実習であると同時に、地域の方に農大を知ってもらう機会でもあります。



サークル活動

スポーツや軽音楽などを通じて、仲間との団結が深まります。



球技大会

新1年生を歓迎する行事として、学生会が企画、開催しています。



地域との交流

地元関金温泉の温泉祭りなど地域行事にも積極的に参加・交流しています。



キャンパスライフ

サークル活動等による学生同士の交流はもとより、修農祭をはじめとした学校行事や地域貢献活動をとおりて地域の方々とも交流しながら充実したキャンパスライフを送っています。

スキー教室

1泊2日の大山。スキーそれともスノボ。インストラクターは農大OBです。



他校との交流

近隣の農大と定期的に交歓会を開催し、互いに励まし合っています。



研修旅行

輸入農産物の現場や本県アンテナショップの視察など研修旅行があります。



国際交流

外国からの研修生(写真はモンゴル研修生)の方とふれあうことができます。



教室

大小様々な明るい教室で授業を受けることができます。



学生寮(希望入寮制)

個室でプライバシーを確保。舎監に何でも相談できます。



図書コーナー

充実した蔵書(主に農業関係)で学習をサポートします。



交流ホール

開放的な交流ホールは一般県民と学生の交流の場でもあります。



充実した施設

平成9年に「開かれた農業大学校」として全面改築した施設は、どこも明るく開放的な空間です。自然豊かな、最高の環境のもとで勉強することができます。

研修用の宿泊施設

研修スタイルに合わせて宿泊することができます。



食堂

学生に必要な栄養を考慮した食事をいつでも提供します。



円形広場

芝生の広場で気持ちのいい時間を過ごすことができます。



トラクター練習場

専用コースでトラクター等の運転実技をしっかりと学びます。



一年間の研修コースで、社会人等で新たに就農を希望する方を対象に、必要な知識と基本技術を習得していただくため、大学校内で実施するスキルアップ研修と県内の先進農家に派遣する先進農家実践研修の二種類の研修を実施しています。

研修名	開講時期及び定員	専攻	主な内容
スキルアップ研修	4、10月 2期合計 15名程度	果樹 野菜 花き 作物 畜産	栽培実習を中心とした実践研修で、栽培や農業経営の知識及び技術の習得を目指します。研修期間中に将来の経営計画を完成します。 ①実習に講義を組み合わせた体系的なカリキュラム ●原則、野菜または花き専攻の実習は、希望作物の栽培管理を個別に担当し、その他の専攻ではグループ形式で実習します。 ●養成課程の講義も自由に受講可能で、先進農家視察等の現場研修も実施します。 ②原則、自営就農の予定者または就農年数の浅い65歳未満の方で、鳥取県内に経営基盤がある方を対象とします。 ③受講料が必要です。
先進農家実践研修	6、10、2月 各期 5名程度	就農部門	現役農家の実践現場で農作業を行うことにより、実践的な現場力を修得します。 ①原則、就農予定地域の希望部門の先進農家に派遣し、経営者の指導により日々の作業を通じて実践力を身につけます。 ②研修期間中に数回の集合研修を実施し、農業に必要な知識等も修得します。 ③原則、アグリチャレンジ研修の修了者で鳥取県在住の方を対象とします。 ④受講料は無料です。



研修生検討会



栽培技術の実習



機械操作の実習

幅広い県民のニーズに応えるため、農業者を対象としたより高度な研修、園児・学生・社会人を対象とした食農体験研修、国際交流研修等、様々な研修を行っています。



野菜の収穫体験



校内見学

研修の種類	主な研修対象	実施時期	主な研修内容	
就農研修	就農体験研修	就農希望者	随時	栽培、飼養の農作業体験等
	アグリスタートサポート研修	担い手育成機構等が雇用する農業研修生	4、7、12月	就農に必要な基礎的知識の学習 大型特殊免許(農耕車限定)の取得
農業機械研修	農業機械士養成研修	農業者 就農希望者等	7、12月	農作業の受託活動をするための知識・技能の習得と大型特殊免許(農耕車限定)の取得
	指導農業機械士養成研修	//	11月	農業機械の作業管理指導者として活動するための知識、技能の習得と大型特殊牽引免許(農耕車限定)の取得
食農体験研修	一般県民	随時	農作業、農産加工などの農業体験 農業大学の施設見学等	
国際農業技術研修	モンゴル中央県研修生等		日本及び鳥取県の農業技術習得のための実習、視察対応等	

アグリチャレンジ研修 (公共職業訓練)

農業法人等への雇用就農を希望する方などにおすすめのプログラムで、農業の基礎知識と各種の基本的な農作業技能の習得を目指します。

- 研修は一期4か月、定員は各期25名、受講料無料です。
- 入校願書の提出先はハローワークですが、研修内容の問合せ先は農業大学校です。

農業大学校 本館全景

学生寮(女子)

学生寮(男子)

食堂

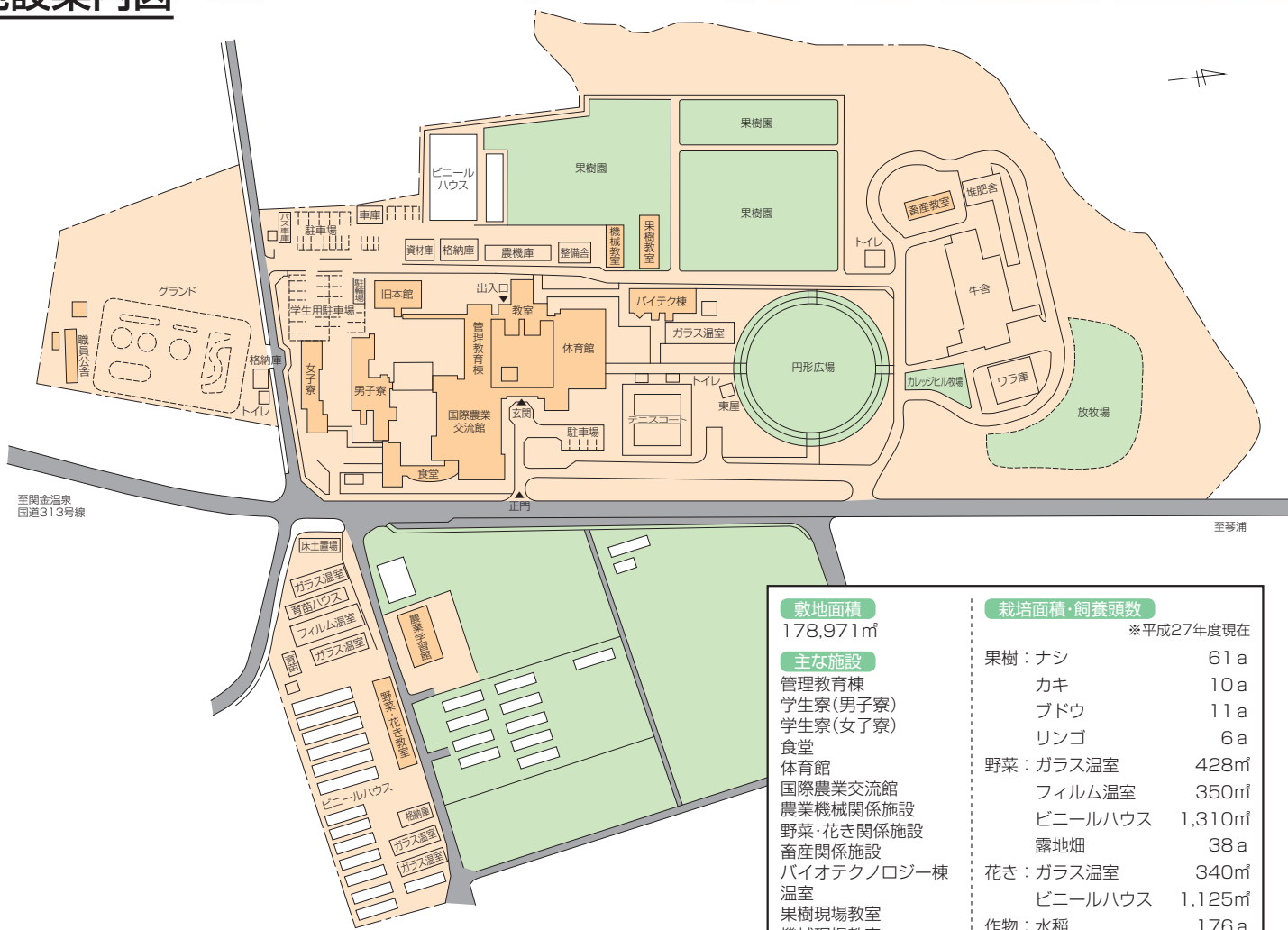
国際農業交流館

教育棟

体育館



施設案内図



敷地面積	
敷地面積	178,971㎡
主な施設	
管理教育棟	
学生寮(男子寮)	
学生寮(女子寮)	
食堂	
体育館	
国際農業交流館	
農業機械関係施設	
野・花関係施設	
畜産関係施設	
バイオテクノロジー棟	
温室	
果樹現場教室	
機械現場教室	
ガラス室・育苗ハウス等	
農業学習館	
牛舎・放牧場	
トラクター練習コース	
グランド・テニスコート	
円形広場	
栽培面積・飼養頭数	
※平成27年度現在	
果樹：ナシ	61a
カキ	10a
ブドウ	11a
リンゴ	6a
野菜：ガラス温室	428㎡
フィルム温室	350㎡
ビニールハウス	1,310㎡
露地畑	38a
花き：ガラス温室	340㎡
ビニールハウス	1,125㎡
作物：水稻	176a
畜産：乳用牛	31頭
肉用牛	11頭
飼料畑	809a
研修：ビニールハウス	980㎡
露地畑	26a

農業大学校略図



交通案内

- JR倉吉駅から関金行・明高行 山口行バスに乗り
- 関金行・明高行 関金バスセンター下車、徒歩20分 関金温泉下車、タクシー3分
- 山口行 関金温泉下車、タクシー3分

鳥取県立農業大学校

〒682-0402 鳥取県倉吉市関金町大鳥居1238
 電話(0858)45-2411 ファクシミリ(0858)45-2412
 E-mail:nogyodaigaku@pref.tottori.jp
 URL:http://www.pref.tottori.lg.jp/noudai/

(平成28年2月)